

石川県剣連だより 剣風春秋

第45号

発行



一般財団法人
石川県剣道連盟

〒920-0811
金沢市小坂町西57-3 KSハイツ205号室
TEL 076-253-0310 FAX 076-253-0341
E-mail:ishikawa-kendo@iaa.itkeeper.ne.jp
URL www://ishikawa-kendo.com

剣道人生に感謝



副会長

北野 優

一 剣道との出会い

私は白山麓の旧白峰村で生まれ育ったことから剣道との縁は全くありませんでした。

白峰中学校を卒業し、金沢の実践商業高校に入学してから剣道経験のある同級生に誘われ、剣道部に入門し剣道の出会いと剣道人生がスタートしました。

当時、学校には剣道を指導する先生がいないことから、週に一度ですが部外講師として元県警剣道師範をしておられた福久力松先生（県警第三代師範）に指導していただいております。

先生には高校生活の二年余り剣道

の基礎、基本を教えていただくとともに時々先生が指導されていた一般企業での稽古にも同行（防具持ち）させていただきました。

そんな高校生活で先生には剣道の楽しさと魅力について学ぶとともに卒業後の進路を県警に決めたことも先生の影響が多分にあつたと感じております。

二 警察剣道人生の始まり

石川県警察学校に入学し、一年間警察官として必要な勉学や術科（剣道、逮捕術など）等の厳しい教育を受け第一線警察署に配置されました。

配置から数ヶ月後、剣道特別強化訓練員（特練員）に指定され警察剣道人生が始まりました。当時の師範は全国警察剣道選手権大会で優勝経験のある杉山實先生（県警第四代師範）でした。

当時の特練は、丸の内体育館武道場（現金沢城公園玉泉院丸庭園）を拠点に稽古を行っておりまして。特練に

特集記事

- 3頁「県高体連選抜強化事業」
専門部委員長 小田 哲生
- 4～5頁「剣客往来インタビュー」
杖道七段 ビットマン・ハイコさん
剣道五段 北村 伸子さん

入った当初、先輩方と稽古すると見るも無惨で俗に言う「ボロ雑巾」のような有様でした。そんな状況で数年間、厳しい稽古を重ねるもなかなか真の実力がついてこない私を先生は菌痒い思いで見ていることと思います。

そんな折、当時警察学校におられた枡谷敏雄先生（県警第六代師範）から今の剣道では将来性がないから上段を執ることを勧められたのです。その後上段で全国に通用する選手となるように必死に取り組み、二年後にどうにかレギュラーの座を獲得することができるようになりました。

特練経験も中盤になった頃、杉山先生の時代から久保良三先生（県警第五代師範）の時代が変わり、特練の拠点も現在の県立武道館に移り、すばらしい環境で稽古に打ち込むことができました。

の間全国警察官大会を始め、警察選手権大会、全日本選手権大会、国体、都道府県大会等々の多くの大会に数多く出場させていただきました。

特練生活十八年間の全国大会（当時は二部制で、一部8チーム、二部40チーム）の結果は、記憶によると二部でベスト8に五回入るも三位入賞を果たすことができず、悔しい思いを残して卒業することになりました。

三 県警師範になつて

不思議な巡り合わせにより、高嶋淳一先生（県警第七代師範）の後任として平成十一年から九年間、県警第八代師範として剣道を通して強くてたくましい警察官の育成に携わることができました。

また、特練指導では九年間の全国大会（現在三部制で、一部12チーム、二部・三部18チームで編成）において二部で準優勝と第三位となり、第一部に2回進出するという快挙を成し遂げることができました。

特練員の努力と頑張りへの敬意を表するとともに感謝に堪えません。終わりに、これまで充実した人生を送ることができた剣道との出会いと歴代警察剣道師範、剣友に心から感謝するとともに、微力ではありますがこれまでの経験を活かして県剣道連盟の

発展に尽くして行きたいと思っております。

全国剣道指導者研修会(報告)



県学校剣道連盟
事務局長
中越 顕治
(七尾高校)

令和元年度の標記研修会が10月19日・20日の二日間にわたり県立武道館で開催されました。

この研修会の目的は、平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の授業の充実に向けたものであります。

講師は、網代忠宏範士八段ほか八段四名、七段三名、六段二名の計九名、研修生は北信越五県から85名の教員・社会体育指導員が集まりました。

研修内容は「中学校保健体育における剣道の学習」に始まり、「体罰・暴力によらない指導」では暴力的指導排除を確認、「楽しい動機付け」ではいかに導入で興味関心を持たせるかを研修しました。

実技研修では、要点がコンパクトにまとめられており、研修生からは大変分かり易かったとの声を数多く聞きました。今回、研修生からの事後感想文を一文紹介し、報

告に代えたいと思います。

「三回目の受講でしたが、毎回洗練されていく研修内容に驚きとともにとても勉強になりました。」

特に今回は『主体的・対話的で深い学び』が随所で展開されていた。

これまで、とりわけ武道では、師が弟子に一方的に伝達し、弟子は師の教えを体得するまで反復練習をすることが一般的なスタイルでしたが、今回はその考え方を根本的に見直す必要があることが分かりました。

正しく伝えるべきことは伝えなければなりません、学習者が自ら学びたい、上達したいと思うような指導を第一に考えていきたいです。」

結びに、講師の先生方の熱心な指導に感謝するとともに、今回の研修を活かしていただき、一人でも多く剣道好きの生徒が増えてくれますことを期待いたします。

全剣連後援剣道講習会(審判法)



普及委員
松本 悟

11月10日、全剣連より太田友康範士をお迎えして、県立武道館にて「審判法講習会」を開催、県内各地域、各職域72名の参加がありました。

南信廣県剣連会長から「自らの審判技術を確かなものにしてほしい」と挨拶、講習に入りました。

講義では、審判の意義・目的・任務・心得について確認の後、特に三つの重点事項「試合運営に関するもの」「有効打突に関するもの」「反則(禁止事項)に関するもの」について詳細な解説をいただきました。

太田先生は「審判が良くなれば試合が良くなり、試合が良くなれば剣道が良くなる」という全剣連相談役の森島先生の助言を引き合いに出し、「審判員は『剣の理法を全うしながら公明正大に試合をして、適正公平に審判をする』とやることをしっかり理解して試合に臨む事が大切だ」と審判員として

の心構えを述べられました。

実技指導では、受講者は二会場に分かれて三人一組となり、試合をする組と審判をする組を交代しながら、実技を行いました。太田先生には全体の様子を見ながら、審判員の位置取りについて詳しい説明とご指導があり、有効打突の見極め、所作事についても丁寧なご指導をいただきました。

閉講式では、全体的に経験豊富な受講生が多かったこと、副審の「きりこみ」が概ね出来ていたことについてお褒めの言葉もいただきました。そして主審・副審の連携の大切さ、有効打突の正しい判定が最も大切であること、自ら稽古を重ね、審判の経験を積むことの大切さについてお話があり、講習会終了後には、太田先生から指導稽古も賜りました。厚く御礼申し上げます。講習会報告とさせていただきます。



県高体連剣道専門部 強化事業



専門部委員長

小田 哲生
(金沢桜丘高校)

一 はじめに

二年後の令和3年度に全国高等学校総合体育大会（インターハイ）剣道競技がいしかわ総合スポーツセンターにて開催されることが決定しています。県高体連剣道専門部では、インターハイを含む各種全国大会に向け様々な強化を行ってまいります。

・中高連携強化事業

近年、年間回数程度、県内の中学生と高校生の選抜選手による合同稽古や試合練習を行ってきました。中学生が高校生から技術やスピードを習得できる強化と、高校生との交流から高校に進学後も剣道を続ける契機として実施してきました。今後も機会を設けて石川の剣道を担う人材の育成を目指し連携して行きます。

・百万石杯争奪高校剣道交流大会

平成24年度から石川県の高校生に全国レベルを知ってもらいたく、強化事業としてインターハイ男子団体優勝校の熊本県九州学院高等学校を招聘した練習試合から始まりました。

本大会の名称となつて今年度で5回目を迎えます。現在はインターハイ女子団体優勝校の福岡県中村学園女子高等学校、そして長崎県島原高等学校の2校も招聘し、全国31都道府県から参加校が集まるようになりました。

会場はインターハイの開催予定地のいしかわ総合スポーツセンターを使用し、今年度は9/14～16の3日間、県内外から男子101校、女子86校、総生徒数1,318名の参加がありました。

全国の強豪校が石川県に集い、試合や交流を図れることは本県高校生にとつて大変貴重な経験となっております。大会結果は最優秀校として男子が九州学院高等学校、女子は中村学園女子高等学校が初回から連覇で百万石杯を獲得しました。



・競技力向上対策事業

今年度より令和3年度インターハイに向けた強化事業として九州学院高等学校剣道部監督の米田敏郎氏を迎えて、9/21～22の2日間の講習会を行いました。

講習会では近年インターハイで連覇している九州学院高等学校の練習を実践していただきました。内



容は非常にレベルが高く、ハードでありましたが、米田先生の情熱ときめ細かい指導で参加選手をはじめ地元の指導者にも大変好評でありました。

結びに、上記の事業については本県剣道連盟から物心両面において支援をいただき、実施できることに深く感謝申し上げます。

来る令和3年度石川インターハイではその成果が大いに期待されています。また、現在取り組んでいる事業が今後さらに発展し、本県選手競技力向上につながることを切に願っています。

剣客往來 インタビュー



杖道七段
ビットマン・ハイコ
さん

本日は、8月の全日本剣道連盟杖道審査会において、石川県内で初めて杖道七段に見事合格された金沢大学国際機構のドイツ人教授ビットマン・ハイコさんにインタビューしました。

問 日本の武道に関心を持たれたのはいつ頃からですか。

今からおよそ40年前、14歳の時、南ドイツの出身地シュトゥットガルトの北に位置するルードヴィヒスブルグ市で空手道の演武を目にする機会がありました。

空手道が放つその魅力に私は強く取りつかれ、現在に至るまで、その魅力が減じたことは片時もないです。

当時のヨーロッパでは、日本の武術・武道はまだまだ珍しいものでした。1980年代初期、私が住ん

でいた人口8万人規模のルードヴィヒスブルグ市には、まだ道場はほとんどありませんでした。そのため、道場探しには苦労しましたが、16歳から本格的に空手道を修行することができました。

1980年代のドイツでは空手道以外に、柔道、そして合気道が少し知られており、主に素手で稽古する武道ばかりでした。面や小手などの用具を使用する剣道などはほんのわずかな愛好者がいるにすぎませんでした。

現在のドイツでは、日本のさまざまな武道が普及しており、剣道はもちろん、居合道と杖道も行われています。

問 お仕事とご自身の武道修行の両立についてお聞かせください。

武道へのあこがれが大きなきっかけになり、1987年からのドイツでの大学時代には「日本学」と「スポーツ科学」を専攻しました。

1990年に初来日を果たし、10ヶ月間金沢大学に留学しました。この留学中に、空手道の修行を続けながら、杖道と居合道とも出会えました。

1993年に再来日し、2000年に、非常勤講師として「杖道」を留学生に教えてみないかという誘いがあり、授業を受け持つことになりました。

のちに、金沢大学教員として採用され、留学生センターおよび国際機構で留学生の受け入れプログラムを担当し、武道（空手道、杖道、武道論）を含む日本文化授業とドイツ語などを教えることになったのです。

つまり、もともと興味があった武道は、研究テーマや博士論文の課題を経て、仕事の一環にもなっていました。

問 現在の武道に対する思い、稽古などについてお聞かせください。

現在、私は杖道、居合道、空手道の修行を続けながら、勝敗だけに拘らず、修行のプロセス自体を大切にしています。

どの武道でも同じでしょうが、その二つに真剣に取り組んでみると、武道の本質とされる「心技体」の密接不可分な統一という課題に直面します。

それぞれの「武道」の目的は、

ただスポーツ的な勝ち負けだけを結果として求めるものでなく、その段階を越えて、人格の完成につながるものでなければならぬと思います。

このように稽古では「体」と「技」の鍛錬を通して、「心」も磨き上げることを目指しています。

問 今後のご自身の生活と武道との関わりや抱負などをお聞かせください。

「修行は一生である」の格言にあるように、私も一生をかけて武道を続けていきたいです。また、自分の修行している武道やその研究を通じて国内外に武道の紹介に努めるつもりです。

さらに、石川県内では、特に杖道の愛好者が増えてほしいと念願しています。興味のある方はぜひ気軽に稽古においでください！

お忙しい中、インタビューをお受けいただき、誠にありがとうございます。先生の二層のご活躍を祈念いたしております。



小松市剣道協会
北村 伸子さん

本日は、70代の女性として石川県内で初めて五段に昇段され、11月に北國新聞社から第13回北國生きがスポーツ賞を受賞されました。小松市剣道協会の北村伸子さんにインタビューしました。

問 最初に剣道歴についてですが、剣道をはじめられたきっかけについてお聞かせください。

小松市剣正会にて長男が剣道を習っていたのでその送迎を行っていました。他の奥様方と雑談をしながら稽古を見ていたのですが、剣道協会の先生から子供と一緒にどうかと誘われました。

正しい礼儀作法や独特の雰囲気的魅力を感じていましたので、5人6人の奥様方と道場の隅で竹刀を振り始めました。

その後、剣道協会の北野圭二先生から「錬精会」という名前を付けていただき、今日に至っています。

問 日常生活の中で剣道に支えられている側面などをお聞かせください。

子供は大学に行くまで剣道を続けていましたので、会話もそれなりにできましたが、夫は変則勤務や転勤で家を空けることが多く、義父・義母、二人の子供たちと生活して行く上で精神的に支えられたのが、剣道で培った前向きな姿勢ではないかと思っています。

現在は、夫と二人だけですが、私は剣道、夫も私と結婚してから間もなく弓道を嗜んでいますので、武道という共通の趣味があり、そういう点で会話も多くなり幸せを感じています。

問 現在、昇段を目指し修行されている女性の方々へ何かアドバイスをお願いします。

私の場合、週二回の稽古に出席するようにしていますが、これだけでは「竹刀を振る」という基本的なことが不足していると思います、家の中、車庫の中、庭の片隅等、なりふり構わず行ってきました。が長続きしませんでした。

私は幸いにも武道館が近いので午前中一時間以内ですが、発声と素振りの稽古に行くようにしています。また、その時一緒に立った協会員の人に教えて頂いたことも沢山あります。

たとえ30分でもひと汗かければスッキリストレス発散になりますね。女性は仕事の外に、家事、育児等々数えきれない諸々のことを行っています。時間が無いと言ってしまうかもしれませんが、夫にも協力していただき時間を作ることを考え、工夫して稽古することを考えています。

私も、夫も「剣道・弓道は生涯スポーツ」と位置づけ楽しませてもらっていますので、無理な稽古などしたことはありませんし、マイペースで続けたことが良かったと考えています。

現在、日々修練されておられる女性や学生の皆様、初段から始まり今日までの段位に沢山の時間をかけ、多くの先生方から学ばれたことと思いますが、努力して取得された剣道の技は身体が覚えていきます。剣道人として誇りを持ち、一人でも多くの方々が継続してくださることを願っています。

問 今後のご自身の生活と剣道との関わりや抱負などをお聞かせください。

これからも夫の協力を得、先生方のご指導をお受けし、生涯スポーツとして継続して行けるよう努力したいと考えています。ありがとうございます。



お忙しい中、インタビューをお受けいただき、誠にありがとうございます。ご健康に留意され一層のご活躍を祈念いたしております。

居合道伝達講習会を 受講して



居合道教士七段
山口 春夫

令和初年度の伝達講習会が九月九日、県立武道館剣道場にて開催されました。

標記講習会は、九月一日・二日京都市武道センターで開催されました中央講習会の伝達講習会として開催されたものであります。

当日は、講師・受講者総勢40名が参集し、県剣連南 信廣会長の挨拶、中村正人範士八段から留意点を含めた挨拶がありました。

午前は、同範士による居合道修業の心構え・目的及び全剣連の倫理規定についての講話、そして要である実技講習へと移りました。

実技講習では、中央講習会に出席した木村正仁教士七段（解説担当）及び竹松孝代志教士七段（実技担当）が、全日本剣道連盟制定居合（解説）「教本」を範として「作法」、「術技（二本目（前））〜十二本目（抜き打ち）まで」を講習会

内容に従い、忠実に受講者の前で実技解説し、術技六本目（諸手突き）までを午前中に、午後からは術技七本目（三方切り）から最後までの実技解説をしました。

講習会の仕上げとして、試合会場を設定し審判講習に移り、六・七段受有者が試合実技について審判技術の講習を受け、模擬試合の勝敗判定（旗揚げ）を行い、勝敗理由を発表する形式で審判技術の確認を行いました。

今回、講習をとおして各術技指導について、「教本」の記述は実際の動きを記述したものであり、その記述を合理的に各所作に置き換えることの難しさを痛感しました。また、居合道修業の奥深さを改めて感じた講習会でもありました。



「ねんりんピック2019 和歌山」に参加して



金沢市
内田 健二

一 はじめに

11月10・11日に和歌山県白浜町でねんりんピック剣道交流大会に石川県チームの先鋒として出場させていただきました。

二 試合内容

対戦結果は予選リーグで、札幌市に2-1で勝ち、高知県に4-0で勝ち2勝しましたが、宮崎県が勝ち数で上回り、残念ながら決勝トーナメント進出できず大変残念でした。優勝は、和歌山県Aチームでした。

三 大会にあたり

全国から70チームの参加で行われました。大会に先立ち高齢者賞（80歳以上四名）の表彰が行われ、背筋が伸びた剣道着姿に大変感動を覚えました。私もその年齢まで稽古したいものです。

石川県チームの「気構え」「立ち構え」は素晴らしく感じました。他県の先生方からお話をいただき嬉しい限りです。

私事で、法政大学時代の先輩・同期生・後輩と35年ぶりに再開でき、若き時代の思い出と変容した姿で話が盛り上がり、楽しい時間をいただきました。

また、4年前に金沢市の少年団と地元有田市の剣道交流会があり、お世話になった先生方、子供たちとも懐かしく再会出来ました。剣道を通じてこのような出会いができ、感動と感謝でいっぱいです。

四 結びに

剣道の修練にて、動き緩くても、気構えの「気」から、打突・機会に流れて行きたいものです。健康であるからこそ、剣道ができ楽しみがありますね。大会の運営された方々、お世話になった地元の方々、感謝とお礼を申し上げます。



剣道七段に合格して



中能登町 横井 隆明

この度、八月の長野審査会において、二回目で七段に合格させていただくことができました。

一回目の受審では、立ち合いの初太刀に面を狙い、確かに打突部位を捉えた感触はありますが、打突前の攻めが無く、ただ単に合わせで打突していました。その後も、打間にいながらも自分の心の中では「ここからどうしよう」になっており、逆に相手に操作されて引き出されていました。

今回の審査に向けては、「心・気・力の一致」を意識するとともに、前回の審査を反省し、「先に攻め入り、相手を引き出す」をテーマにして日々の稽古に臨みました。また、自分が納得できるまで審査を受けないと腹を決めて、あえて、丸々一年間を休業期間とすることとしました。

日々の稽古では、少年剣道教室の指導を行っていたため、自分の稽古

剣道六段に合格して



かほく市 山下 竹光

一 はじめに

このたび8月18日、長野県で行われました剣道六段審査会に合格させていただきました。

二 剣道歴と受審動機

私は高校までラグビーをやっていた剣道はその後、職場で始めました。剣道を始めて5年、五段に昇段して31年が過ぎました。その間に後輩が六段・七段に合格し羨ましい思いをしました。私も受審の声掛けをいただきましたが、まだ六段の剣道ではないと思いつ度も受審をしませんでした。

ところが、今年に入り地元の日曜稽古会に参加していた時、県武でのねりんピック稽古会に参加してみないかと誘いを受け、参加したところ諸先輩方と楽しく稽古ができ、令和元年、自身60代最後の年に六段挑戦を決めました。

三 受審に向けた稽古内容

県警本部道場では金曜日に朝稽古、かほく市新化館ではその夜(若い剣道仲間との稽古)と日曜日に稽古、県立武道館ではねりんピック稽古会等、稽古のない日は立会中に息が上がらないよう5km位歩いたり走ったりした後、自宅の庭で素振りをしました。

四 受審(立会)に臨んで

審査は一番年齢の高い審査場で行われましたが、左足の捻挫が完治しない中、ここで倒れてたまるかの思いで蹲踞から立ち上がり、触刃の間合いから相手の倍の気合をかけ、捨て身の気で面を打ちました。更に小手・面を打ち、相手が焦って面に出るところを胴で抜き、雑に攻めず正しい姿勢で思い切って打つことを心掛けました。

五 今後の抱負

正しい姿勢で刃筋正しく打つためには、「素振り、打ち込み、切り返し」の基本に尽きると思います。これからも怪我に留意し稽古に励みたいと思います。

【全国大会等記録】(7~12月)

◎第49回全国中学校剣道大会

8月21~23日、

丸善インテックアリーナ大阪

◇男子団体(予選リーグ)

宇ノ気 ②-1 高屋

宇ノ気 0-1 富雄

◇女子団体(予選リーグ)

宇ノ気 ①-0 東海大翔洋

宇ノ気 ②-0 下川

▽決勝トーナメント一回戦

宇ノ気 1-③ 土崎

◇女子個人

▽ベスト16 横山 雅(宇ノ気)

石川 1-② 栃木

◎第74回国民体育大会

9月29日~1日、下館総合体育館

◇少年女子

▽一回戦

石川 ⑤-0 宮城

▽準々決勝

石川 0-② 茨城

◇成年男子

▽一回戦

石川 1-③ 栃木

◎第67回全日本剣道選手権大会

11月3日、

丸善インテックアリーナ大阪

▽一回戦

篠井皓太 1-② 北村(愛知)

◎第32回全国健康福祉祭剣道交流大会

11月10~12日、和歌山県白浜町

▽予選リーグ(4チーム2戦方式)

石川 ②-1 札幌市

石川 ④-0 高知

中央審査会合格者

◇剣道

▽七段 四柳友一 横井隆明

▽六段 竹田洋之 東屋晴夫

▽六段 半田貴章 古山岳

▽六段 山下竹光 中村貢

▽錬士 永原一

◇杖道

▽七段 ビットマン・ハイコ

◎第11回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

7月13日、日本武道館

▽二回戦

石川 0-④ 静岡

◎第66回全国高等学校剣道大会

8月3~6日、熊本県立総合体育館

◇男子団体(予選リーグ)

金沢市工 1-③ 水戸葵陵

金沢市工 2-③ 西陵

◇女子団体(予選リーグ)

金沢 1-③ 島原

金沢 0-① 磐田西

◎第40回北信越中学校剣道大会

8月8日、新発田市カルチャールC

◇男子団体

▽決勝 宇ノ気 ③-1 小針

◇女子団体

▽決勝 宇ノ気 ③-0 松代

◇男子個人

▽優勝 今村哲太(宇ノ気)

▽第三位 石田大晴(宇ノ気)

◇女子個人

▽第二位 横山 雅(宇ノ気)

◎第61回全国教職員剣道大会

8月11日、サンアリーナせんだい

▽一回戦

石川 1-② 広島

石川 1-② 広島

◎第14回全国都道府県対抗少年剣道優勝大会

9月15日、

丸善インテックアリーナ大阪

◇小学生の部

▽決勝トーナメント一回戦

石川 0-④ 岡山

◇中学生の部

▽決勝トーナメント一回戦

石川 ②-0 岡山

▽準々決勝

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
HP <http://www.rindoubudougu.jp/>
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp

●定休日/月曜日

【営業品目】
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(袴・セッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハシモト

金沢市上荒屋7丁目67 TEL 249-8233
〒921-8065 FAX 249-9139